

学校経営推進費 評価報告書（2年め）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立港南造形高等学校
取り組む課題	授業改善への支援（生徒の学力の充実）
評価指標	1 外部機関の客観的学力診断テストにおける学力の向上 2 学校教育自己診断における生徒の授業満足度の向上
計画名	美術教育最先端“港南造形の ICT 飛躍的改造”計画 “Konan drastic innovation”

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1 造形活動を通して、「確かな学力」と「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成</p> <p>（1）造形活動を通して、造形文化、造形表現に必要な「確かな学力」、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成に取り組む。</p> <p>ア 1年次より、全員がタブレット端末（BYOD）のポートフォリオ活用等による系統的学習習慣を身に付けることで、基礎的な学力を向上させる。また、「学校経営推進費」採択により設置するプロジェクタ（全 HR 教室）と連動させることで、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」を飛躍的に向上させる。「学習動画」を活用し、予習・復習の自学自習の習慣を身に付けさせることで、苦手教科（数学・理科）の克服を図る。</p> <p>イ 造形教育における圧倒的な知識・実技力を身に付けさせるとともに、少人数展開授業や ICT を活用した授業の拡充を図る。</p> <p>ウ 造形教科、普通教科ともにプレゼンテーションや相互批評を行うことを通して、主体的・対話的で深い学びを充実させる。また、読書活動の促進により、言語活動を充実させる。</p>
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「ICT を活用した授業改善」により、学校教育自己診断において「授業内容に興味・関心をもつことができている。」の肯定的回答（平成 29 年度 78%、平成 30 年度 84%、令和元年度 80%）を、令和 4 年度には 90% に近づける。 ・「発信力」の育成について、卒業時にはすべての生徒が ICT 機器を活用して、プレゼンテーションができる力を身に付け、造形表現力とともに言語表現力の向上を図る。生徒が自らの考えをプレゼンテーションできる能力に加え、他者の考えも認め、互いに尊重し合えることができる力を育成する。今回、普通教室（15 室）への短焦点プロジェクタを設置することにより、生徒が所有する Android タブレット端末の活用を促進する。
整備した 設備・物品	電子黒板機能付き超短焦点プロジェクタ 9 セット
取組みの 主担・実施者	<p>主担者：ICT 活用授業改善チーム</p> <p>実施者：全教員の 8 割程度を予定（最終的には全教員）</p>
本年度の 取組内容	<p>各学年・各教科で超短焦点プロジェクタを活用した。特に、数学科・地歴公民科・理科・保健体育科においては、毎時間ごとプロジェクタに授業に関する映像や画像を投影し、より理解しやすい授業展開を心がけている。</p> <p>また、家庭科においては、1 人 1 台端末を用いた調べ学習をする中でプロジェクタを使用</p>

	し、生徒が成果発表をする授業展開を実施した。
成果の検証方法 と評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 造形科を含む全教科において ICT を活用した教科を 5 教科以上にする。 ・ 各教科の代表による公開授業での ICT 活用の実践発表と研究協議を実施した教科を 5 教科以上にする。 ・ 学校教育自己診断（生徒）の項目で、「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」（R2：83%）、「学校の施設や設備について満足している。」（R2：78%）の肯定率を 3% 以上向上させる。 ・ 授業アンケートの項目で「先生はプリント等の教材、ICT 機器等を効果的に活用している。」の肯定率を 75% 以上にする。
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての教科でのプロジェクタを活用し、造形科を除く 8 教科が毎回授業内で活用した。造形科は毎回活用する授業と、説明時にのみ活用する授業があった。…………… (◎) ・ 数学・地歴公民・体育・家庭の 5 教科による、公開授業で ICT を活用した研究授業と研究協議を実施し、各々の教員のスキルアップをすることができた。…………… (○) ・ 「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」が 89%、「学校の施設や設備について満足している。」が 89%（昨年度 78%）と向上した。…………… (○) ・ 授業アンケートの項目で「先生はプリント等の教材、ICT 機器等を効果的に活用している。」の肯定率 88%…………… (◎)
次年度に向けて	各教科において、超短焦点プロジェクタを使用し、生徒用の 1 人 1 台端末 Chromebook と連携させることにより、より理解しやすい授業展開ができるように使用方法も含めた校内研修を実施する。